

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年2月28日現在

今月の重点活動

■平成28年度「西濃農業の活性化をめざすセミナー」を開催 全域

2月13日に西濃総合庁舎大会議室において、管内農業関係者約150名を参集し、各種情報の提供・共有と担い手育成を目的に表記セミナーを開催した。

農業普及課からは伊藤美由紀技術主査、古沢健太郎技術主査がそれぞれ、キュウリの病害対策支援、大豆の難防除雑草対策支援を中心に活動の成果を発表した。発表後、それぞれの関係生産者代表から激励の意見等も出され、日ごろの活動に対し評価を得ている感触が認められた機会でもあった。

また(株)名産販売企画販売部長から講演があり、昨今の農産物・加工品の販売、流通に際してのポイント等について解説され、農家が生産から流通を意識し6次産業化等を志向していく上で参考となる貴重な情報が提供された。



【活動の成果報告を行う古沢技術主査】

多様な担い手づくり

■西南濃指導農業士会活動支援 西濃ブロック指導農業士研修会

2月7日に西南濃指導農業士会は揖斐地区指導農業士会と合同でブロック研修会を開催し、農業普及課は会員の活動を支援した。今年度は西南濃支部が企画し、3名の会員の経営訪問（水稻他、イチゴ、トマト）を行った。また、研修会后、情報交換会を行い会員間の交流を深めた。

普段訪れることがない仲間の生産現場を見て説明を聞くことができ、有意義な情報収集の機会となった。



【経営訪問1 水稻他】

【経営訪問2 イチゴ】

【経営訪問3 トマト】

■大垣市 ICT農業システム導入支援

1月31日に関市にて、岐阜県（農産園芸課）主催の「新しい稲作セミナー」において(株)D.I.Bの林代表からICTシステムの導入、運用についての成果発表があった。(株)D.I.Bは、県の平成28年度事業の中で、(株)クボタの「KSAS」を導入している。「KSAS」とは、地図データ、ほ場プロフィールをクラウドで管理するシステムで、現場の端末（スマホ可）から入力ができ、入力した情報は作業内容、時間、投入資材等一括あるいはほ場ごとに管理できる。農業普及課は(株)クボタと連携して当日の発表を支援した。

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー ブロッコリー協議会中間検討会の実施

1月31日にJAにしみのブロッコリー生産協議会中間検討会が開催され、これまでの出荷状況の確認及び今後の出荷に際し、花咲や花蕾黄化に注意して選果することが周知された。今年のブロッコリー出荷状況は、9月の定植時期に降雨が続き、定植遅れとなったため、1月末時点で計画数量の5割程度と遅れている。今後気温の上昇に従い、出荷後の品質保持に懸念がでている。

農業普及課からは、鮮度保持袋を利用した花蕾黄化対策試験結果及び畝被覆による生育前進化試験の結果について説明し、次年度から鮮度保持袋を取り入れていけるよう生産者の理解を図った。



【中間検討会の様子】

売れるブランドづくり

■なし・大垣市 梨の根圏制御栽培施設の設置支援

水稲の作業受託を行っている(株)D.I.Bが梨部門を新設し、栃木県で開発・研究された新技術「梨の根圏制御栽培法」を16aの面積で導入し、栽培施設の設置を進めている。

2月13日、14日に栃木県農業試験場の指導により、苗の植え付け、支柱立て等施設設置方法に関する作業を(株)D.I.B従業員、関係者含め17人で実施し支援した。

根圏制御栽培の特徴である早期多収穫、作業労力の軽減効果を活かし収益の向上を目指すほか、地域梨産地の維持・後継者育成のためのモデル園としての機能も計画している。



【設置作業の様子】

■春だいこん 目揃会が開催

本年の冬期は平年並みの気象条件で、寒暖の差は激しいものの、日照時間は多く推移している。前年9月の天候不順は秋冬野菜全般の生育に影響を及ぼしたが、10月下旬以降の気候は比較的安定し、春大根の播種は順調に進んだ。ハウスだいこんの生育は、平年よりやや早く、牧園芸組合では2月12日から春だいこんの出荷が始まっている。

そこで、2月16日に春だいこん目揃会が開催され、出荷規格の確認等が行われた。一部の圃場でアブラムシの発生が確認されており、農業普及課からは、病虫害対策等の栽培支援についての指導を行った。



【目揃会の様子】

■トマト 海津トマト部会の全員研究会の開催

JAにしみの海津トマト部会では、第2回目の養液栽培（ポット耕）研究会を1月27日（金）に就農支援センターにおいて、ポット耕による生産者等約30名が参加し開催された。就農支援センター1～2期生が就農後に実際に知りたい技術情報について事前に聞き取りを行い、その内容を踏まえて、2月以降の管理原水のNa対策を中心に就農支援センター安田氏より説明があった。今後の管理に非常に役立つ内容であった。また、各生産組織で研修会（池辺園芸トマト組合2月3日、海津トマト部会全員研究会2月17日）が開催され、農業普及課からは、3月以降の管理（灌水、温度管理、肥培管理）と生育判断とその対処法（樹勢、生育バランス）について説明した。生育判断及びその対処法については、高い関心をもつ生産者がいた。